

工事等の入札・契約に関する意見書

平成 24 年 3 月 26 日

札幌市入札・契約等審議委員会

1 入札結果の分析について

(1) 入札結果について多角的に分析を行い、傾向を把握すること。

平成 23 年度は、平成 22 年度と比べ、くじ引き入札の発生が大幅に増加したことが報告された。この理由としては、積算単価等の公表や設計図書の公開などで業者の積算精度が向上したことも要因の一つと考えられるが、業者間の受注競争が激化していることを改めて示したものであると考える。

入札結果の分析は、入札・契約制度改善のための基礎資料となるものであることから、札幌市においては、引き続き入札結果について、多角的に分析を行い、入札における競争性、公平性、透明性が確保されているか、把握に努めることが必要である。

2 工事の品質確保について

◎ 総合評価方式

(1) 評価方法等について、他都市における取扱い等の情報収集を行い、調査・研究に努めること。

札幌市は平成 23 年度から、特別簡易型Ⅰ型・Ⅱ型の名称を技術評価重視型と地域貢献重視型に改めるとともに、技術評価重視型については、「企業の施工実績」と「配置予定技術者の能力」の点数の割合を高くし、より技術力が重視される評価となるよう、配点バランスの見直しを行っている。

この見直しを行った結果、技術評価重視型では、技術力のある業者が落札しやすくなり、落札業者が固定化する傾向が、より強まったことが当委員会に報告されているところである。

この傾向は、「価格と品質が総合的に優れた調達を行う」という総合評

価の考え方とも合致しており、当委員会としても評価できるものである。

一方で、地域貢献重視型を含む総合評価方式全体の傾向として、一般の案件と比べて入札参加者が少ないことや固定化される傾向にあること、また、現状の評価方法等では、若手技術者がチャレンジしにくい面もあることから、他都市における総合評価方式の取扱いについて、積極的に情報収集を行い、適切な見直しが行えるよう調査・研究に努める必要があると考える。

◎ 成績重視型入札について

- (1) 2年（又は3年）型の成績重視型入札を試行実施し、その結果について分析すること。

成績重視型入札については、平成 22 年度に当委員会が提出した意見書において、実績の評価年数や実施件数に十分配慮するよう提言を行った。

これを受け、札幌市は、現行で過去 5 年間としている評価年数を 2 年（又は 3 年）とする成績重視型入札の試行実施について、検討中であると当委員会に報告しているところである。

この評価年数を短くする試みは、直近で良好な成績を修めた業者にインセンティブを与え、工事の品質や技術力向上へのモチベーションを上げる効果が期待できるため、札幌市にとってもメリットがある。

このことから、2年（又は3年）型の成績重視型入札を試行実施すべきである。

なお、長期で継続して優良であり続けた業者にも、引き続き受注機会が与えられることが必要であり、全ての成績重視型入札を 2 年（又は 3 年）型にするのではなく、5 年間継続して良好な成績を修めた業者、ここ数年で特に良好な成績を修めた業者両方が評価されるような仕組みが必要であると考えます。